

夏秋キュウリにおけるホモプシス根腐病対策のための根域制御が生育、収量に及ぼす影響

福島県農業総合センター 作物園芸部
平成18年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

野菜 - キュウリ - 施肥法
分類コード 03-01-13000000

2 担当者

太田弘志・芳賀紀之

3 要旨

ホモプシス根腐病に対して、根域制限によるキュウリ根と汚染土壌を隔離する方法により露地キュウリを安定的に生産できる栽培技術を開発するため、露地圃場において、根域制御手法による栽培を実施し、生育及び収量について比較検討した。

- (1) 波板を畦の側面に埋め込む(波板)、防根透水シートを畦の下に埋め込む(シート)、波板を利用して箱状の器を作り畦を作る(完全隔離)等の方法について、5月下旬から9月下旬まで栽培を行った。ここで慣行栽培と波板は灌水を主体とした追肥体系とし、シートと完全隔離は灌水同時施肥を主体とした追肥体系とした。
- (2) 側枝の発生数について波板 > 慣行 > 完全隔離 > シートの順に多かった。根域が狭いほど側枝発生が少なくなる傾向であった。
- (3) 収量は、全収量で 慣行 > 完全隔離 > シート > 波板の順に多かった。波板は全般に収量が低いまま推移した。可販果収量は、完全隔離 > 慣行 > シート > 波板の順に高かった。全般に可販果率はやや低く、主に曲り果によるものが8月以降多かった。
- (4) 以上より、防根透水シート、隔離床による根域制御手法は、灌水施肥同時施肥と組合せて管理を実施することにより慣行栽培並みの収量品質が得られると考えられた。

4 その他の資料等

なし

